

【学力特集号】

学校だより 令和5年2月28日 №14



いずみだい

北九州市立泉台小学校 校長 平川 信乃

学校教育目標

「心豊かに たくましく生きぬく 実践力のある子どもの育成」
～ 自分の未来を 自分で切り拓く力を育む ～

子どもと目指す 泉台の「あ・い・う・え・お」

「あ」 あいさつをしよう

「え」 笑顔でチャレンジ！自分をみがこう

「い」 いのちを大切にしよう

「お」 お話をしっかりと聞こう

「う」 美しい学校にしよう

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

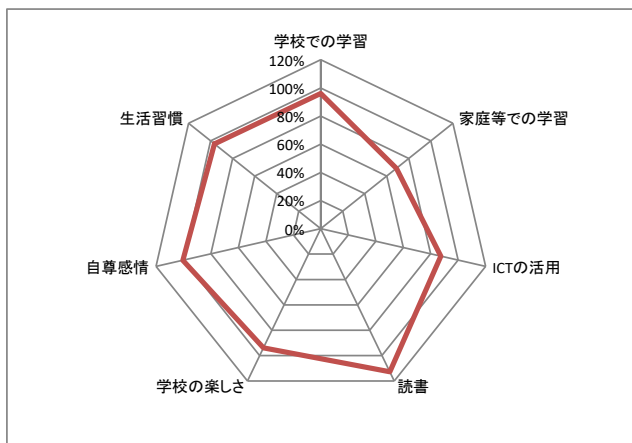
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に関する問題の正答率は全国を大きく上回っており、話し合いの様子から、話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことを捉えることができている。「言語の特徴や使い方にに関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」についての正答率は全国を下回っている。	上回っている
算数	本市の正答率は上回ったが、全国に比べるとやや下回っている。具体的には「データの活用」に関する問題の正答率は全国を上回っているが、「数と計算」や「図形」、「変化と関係」に関する問題の正答率は若干下回っている。問題からたずねられていることを理解し、根拠を基に自分の考えを表現したり、回答したりすることが課題である。	やや下回っている
理科	全体的に全国や福岡県の正答率を若干上回っている。観察や実験による結果を基に、友達の考えや気付きを分析・解釈し、自分の考えをまとめることが今後の課題である。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・「自分にはよいところがある」と回答した数は全国を若干上回っており、自己肯定感はやや改善されつつある。
- ・「将来の夢や目標をもっている」、「自分でやると決めたことはやり遂げる」といった意識調査では、全国を上回っている。一方、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しようとする」という項目では下回っていることから、肯定的な評価を通して価値付けや励ましを重ねるよう心掛ける必要がある。
- ・読書量や「読書することが好き」と回答した割合は全国を上回っていることから、今後も読書活動に継続して取り組んでいくようにする。
- ・家庭学習やICTを活用した学習については、**全国を大きく下回っている**。今後は、家庭との連携を更に密にしながら、改善していかなければならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学力向上に向け職員研修を充実する。学習状況調査やCRTによる課題を職員で共有し、改善ための方法を考える。
- ・朝自習の時間等でデジタルドリルを活用し、学習後の振り返りや基礎基本の定着を徹底できるようにする。
- ・考えが深められるようなノートの書き方や、自学ノートの書き方の工夫ができるようにする。
- ・指導過程で「自分で考える活動」を必ず設定し、自分の考えを基にした話し合い活動の充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自学ノート作成に積極的に取り組むなど意識が高まってきたことから、「自学」の優れた取組の紹介を継続する。
- ・家庭学習の習慣が少しずつ身に付いてきているので、学校だよりや学級通信等で更に家庭学習の大切さを伝えていく。
- ・積極的な読書活動を今後も継続できるように、読書の楽しさや素晴らしさを伝え、意識を高める活動を行っていく。
- ・宿題や課題の出し方を学年で共有しながら行ってきたが、今後は学校全体を通して取組を進めていく。